

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
「転炉スラグによる土壌pH矯正を核としたフザリウム性土壌病害の耕種的防除技術の開発」
研究成果発表会 開催要領

1. 趣 旨

土壌病害の発生は野菜や畑作物を栽培する上で極めて深刻な問題である。中でも、フザリウム性の土壌病害はその広範な宿主範囲から多大な被害をもたらしている病害の一つで、主な対策としては抵抗性品種の利用と土壌消毒が挙げられる。これに加えて、石灰肥料を土壌に施用して酸性改良すると発生が少なくなる傾向があることから、これを効果的に利用する技術開発を2012年度から3年計画で農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業として取り組んできた。今年度最終年を迎えることから、これまでに得られた研究成果を生産者、消費者、普及関係者、研究者等に向けて発信し、技術の普及と定着を図ることを目的に開催する。

2. 日 時：平成26年12月16日（火）11時～16時30分

3. 場 所：盛岡市民文化ホール 小ホール（マリオス1F）
（岩手県盛岡市盛岡駅西通二丁目9番1号 TEL019-621-5100）

4. 主 催：農研機構東北農業研究センター

5. 対 象：生産者、消費者、市場・流通関係者、農協関係者、企業、普及関係者、行政関係者、大学、研究者等（どなたでも参加できます）

6. 参加費：無料

7. 内 容

- | | |
|--------------------------------------|-------------|
| 1) 開会挨拶 | 11:00-11:05 |
| 農研機構東北農業研究センター所長 | |
| 2) プロジェクトの目的と取り組み内容 | 11:05-11:20 |
| 農研機構東北農業研究センター 上席研究員 門田 育生 | |
| 3) 基調講演 | 11:20-12:00 |
| 座長（地独）青森県産業技術センター農林総合研究所 研究管理員 岩間 俊太 | |
| 転炉スラグ資材を用いた土壌病害の被害軽減技術開発の背景と歴史 | |
| 東京農業大学 教授 後藤 逸男 | |
| —— 休憩（12:00-13:00） —— | |
| 4) 話題提供 | 13:00-16:15 |
| 司会・進行 農研機構東北農業研究センター 上席研究員 門田 育生 | |
| (1) ホウレンソウ萎凋病の被害軽減技術の開発と実証 | 13:00-13:25 |
| 岩手県農林水産部 主任 岩館 康哉 | |
| (2) 品種の耐病性と育苗方法を併用したレタス根腐病の被害軽減技術 | 13:25-13:50 |

(地独) 青森県産業技術センター農林総合研究所 研究管理員 岩間 俊太

(3) 耐病性品種を併用したイチゴ萎黄病の被害軽減技術 13:50-14:15
宮城県農業・園芸総合研究所 副主任研究員 大場 淳司

(4) 転炉スラグ資材の粒状・粉状の違いがイチゴ萎黄病の被害に与える影響 14:15-14:40
福島県農業総合センター 研究員 畑 有季

———— 休憩 (14:40-15:00) ————

(5) 太陽熱消毒と併用したセルリー萎黄病の被害軽減技術と微量元素の挙動 15:00-15:25
東京農業大学 助教 大島 宏行

(6) 転炉スラグ資材施用後の地力変化と施肥管理法および水田復元後の水稻栽培 15:25-15:50
(地独) 青森県産業技術センター農林総合研究所 研究員 谷川 法聖

(7) 転炉スラグ資材の施用が土壌微生物相に及ぼす影響 15:50-16:15
農研機構北海道農業研究センター 主任研究員 森本 晶

5) 総合討論 16:15-16:30

6) 閉会 16:30

8. 参加申込等

- ・ 申込締切：平成26年12月5日(金曜日)
- ・ 定員200名(先着申込み順。定員になり次第申し込みを締め切ります)。
- ・ 参加を希望される方は、別紙の申込用紙に必要事項を記入のうえ、下記の開催事務局までFAXまたはメールをお送りください

9. 問い合わせ先(開催事務局)

農研機構東北農業研究センター 生産環境研究領域 門田育生

020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4

Tel: 019-643-3524 FAX: 019-641-7794 E-mail: kadota@affrc.go.jp

※ 農研機構(のうけんきこう)は、「独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構」のコミュニケーションネーム(通称)です。